

公益社団法人 日本糖尿病協会  
REPORT 2021

ニューノーマルを  
わたしらしく



日本糖尿病協会公式  
マスコットキャラクター  
「マールくん」

# CONTENTS

- 1 TOP MESSAGE

---
- 2 日本糖尿病協会の概要

---
- 3 日本糖尿病協会の会員

---
- 4 特集1 糖尿病をもつ人への支援

---
- 6 特集2 医療者の皆さんへの支援

---
- 8 特集3 企業との協力事業

---
- 10 特集4 世界糖尿病デー 国内の活動

---
- 12 事業一覧

---
- 14 発行雑誌紹介

---
- 15 糖尿病協会グッズ紹介

---
- 16 日本糖尿病協会と連携する諸団体

---
- 17 2021年度 役員名簿／決算書

---
- 18 日本全国に広がるネットワーク

---
- 19 都道府県糖尿病協会活動レポート

## TOP MESSAGE



日頃より、日本糖尿病協会の活動にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。2021年度の当協会の事業記録をお届けいたします。ご高覧くださいますようお願い申し上げます。

2021年は、前年に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。皆さまの生活も、ウィズコロナの時代を見据えた生活様式にシフトしつつあるのではないかと思います。日本糖尿病協会も、2020年は集合型のすべての活動の休止を余儀なくされましたが、昨年はITを活用して、少しでも啓発活動啓や教育事業を前に進める努力をいたしました。

一例を挙げると、第8回日本糖尿病療養指導学術集会（本年度より日本糖尿病協会年次学術集会と改称）を完全オンライン開催で実施し、山田祐一郎会長や関係者のご尽力により、同学術集会の特色であるスモールグループディスカッションも実施することができました。また、患者さん向けでは、小児糖尿病の子どものためのインターネットサイト「小児糖尿病バーチャルキャンプ」も構築し、全国の患児や医療スタッフ約800人に参加いただきました。

コロナ禍を契機として、社会のデジタル化は一気に加速し、高齢世代のスマートフォン所有率も年々上昇しています。この変化に対応するため、当協会でも昨年、啓発事業デジタル化資金の積み立てを開始いたしました。どのような環境下にあっても糖尿病の治療や学びを止めることのない仕組みを構築し、友の会活動のような対面の良さと、新しいデジタルコミュニケーションの長所を包括した活動を、今年も展開して参ります。

また、2019年から継続しているアドボカシー活動につきましても、病名変更や医療用語の見直しの議論を含め、患者さんが被る不利益を少しでも払拭できるよう取り組んで参ります。

引き続き、当協会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年5月

公益社団法人 日本糖尿病協会

理事長 **清野 裕**

関西電力病院 総長

関西電力医学研究所 所長

京都大学名誉教授

アジア糖尿病学会(AASD)理事長

# 日本糖尿病協会の活動について

日本糖尿病協会のステークホルダーは、糖尿病をもつ人、医療者、自治体、企業など多岐に渡ります。そうした方々に向けて、以下の3つの目標を持って活動しています。

## 糖尿病の正しい知識の普及啓発

1. 糖尿病の発症や重症化を予防する知識を皆さんに提供し、糖尿病をもつ人が糖尿病のない人と変わらない生活ができるよう支援します。
2. 糖尿病医療の質の向上を目指し、医療者の皆さんのスキルアップをお手伝いします

- 糖尿病専門雑誌の発行
- 治療に役立つグッズの制作
- 糖尿病の子どものキャンプ
- 友の会での交流 など

- 年次学術集会の開催
- 医療者向けe-learning
- 医療現場で活用できる資材の開発 など



## 調査研究

よりよい医療を提供するための基礎づくりを行います。

- 研究助成
  - 糖尿病治療薬の市販後調査
  - 患者さんや医療関係者へのアンケート調査
- など

## 国際交流

日本だけにとどまらず、世界規模で糖尿病対策に取り組みます。

- 世界各国の学・協会との協調
  - 国際糖尿病連合の一員としての活動
  - アジア地域の若手研究者育成
- など

# 日本糖尿病協会の特長

日本糖尿病協会は、糖尿病をもつ人と医療者、それに企業や健康に関心の高い市民が連携して、糖尿病撲滅を目指す団体です。医療者も医師・歯科医師をはじめ、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士など幅広い職種が参加し、患者さんに良質な医療を提供するための取り組みを行っています。また、患者さんやそのご家族が暮らす地域や職場にも呼びかけ、糖尿病の正しい知識と予防の啓発を実施しています。



# 日本糖尿病協会の会員

日本糖尿病協会には、糖尿病に関心のある方ならどなたでも入会することができます。糖尿病をもつ人やご家族、糖尿病医療に関わる医療者や企業の皆さんが、日本糖尿病協会という輪の中で同じ目的をもって活動しています。

## 友の会 会員

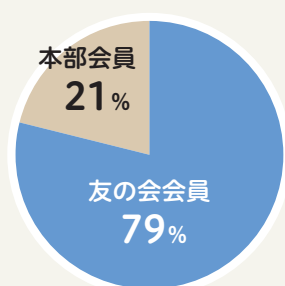
糖尿病診療を行う医療機関に設けられている「糖尿病友の会」に入会する会員です。協会誌「糖尿病ライフさかえ」の購読と、友の会での交流活動に参加できます。友の会は、全国の約1,600の医療機関に設置されています。

## 本部 会員

日本糖尿病協会本部に入会し、協会誌「糖尿病ライフさかえ」を購読して、糖尿病の知識を深めることを目的とする会員です。全国どこからでも入会が可能で、若い世代や医療者が多く参加しています。

上記以外にも、日本糖尿病協会の目的に賛同して、活動をご支援いただく企業・団体や個人を対象とする賛助会員制度もあります。

### 会員の所属先



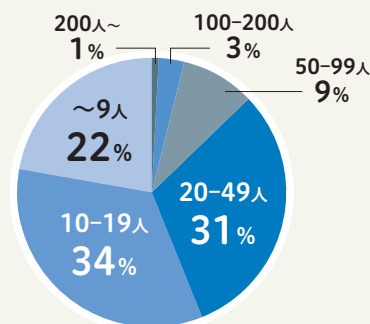
#### 友の会

- 医療機関に設置の分会（約1600）に加入
- 会員の8割前後は患者と推定
- 会員氏名は本部では把握せず

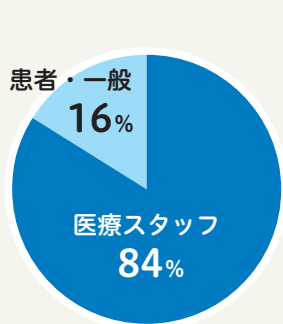
#### 本部会員

- 個人加入

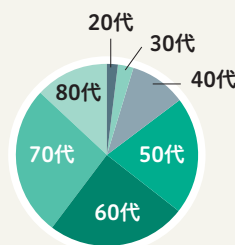
### 在籍人数からみた友の会の大きさ



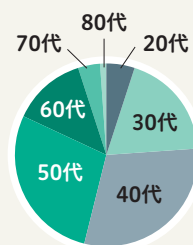
### 本部会員の属性



#### ■年齢



#### 患者・一般



#### 医療スタッフ

## 2021年度 賛助会員

MSD株式会社  
株式会社おいしい健康  
帝人ファーマ株式会社  
日本イーライリリー株式会社  
大正製薬株式会社  
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社  
テルモ株式会社  
サンスター株式会社  
興和株式会社  
アボットジャパン合同会社  
アークレイマーケティング株式会社  
アストラゼネカ株式会社  
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

田辺三菱製薬株式会社  
PHC株式会社  
ノバルティスファーマ株式会社  
株式会社三和化学研究所  
サノフィ株式会社  
協和キリン株式会社  
株式会社ファンデリー  
日医工株式会社  
有限会社ニック  
ティーベック株式会社  
大塚食品株式会社  
株式会社コムラ  
第一三共株式会社

松谷化学工業株式会社  
ニプロ株式会社  
日本メドトロニック株式会社  
LifeScan Japan株式会社  
味の素株式会社  
ロシュ DCジャパン株式会社  
アステラス製薬株式会社  
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社  
株式会社ティ・プラス  
小野薬品工業株式会社  
エクセルエイド少額短期保険株式会社  
住友ファーマ株式会社  
江崎グリコ株式会社

株式会社浅田飴  
東ソー株式会社

(順不同、敬称略)  
2022年3月31日現在

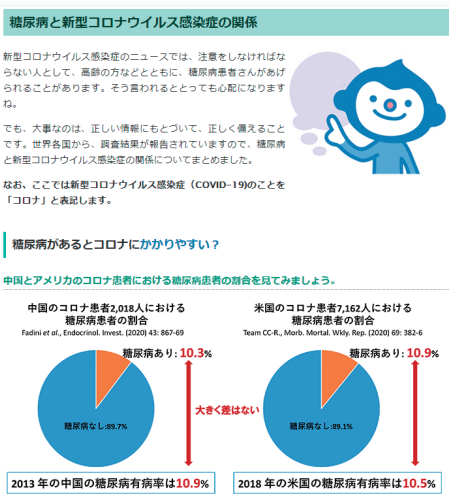
# 糖尿病をもつ人への支援

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2021年度はオンラインを利用した取り組みが中心となりました。また、患者さんの糖尿病とともに歩む生活に役立つ自己管理ノートの改訂も行いました。



## HPの情報発信（危機管理）

新型コロナ感染拡大の第5波にさらされていた8月。コロナ対策をまとめたページの情報アップデートを行い、糖尿病患者さんが他の疾患で体調不良になった際の対応や、感染予防と血糖値を良好に保つ血糖マネジメントを両立することの大切さを訴えました。



←新型コロナウイルス関連情報ページへ

また、7月から8月にかけて各地で発生した集中豪雨の際は、トップページに糖尿病患者さんに特化した防災情報を掲載し、命を守り、災害により糖尿病を悪化させない工夫を伝えました。

**準備しておきましょう**

**災害時 1, 2, 3**

- 1 インスリン、針、くすり
- 2 水、補食、ブドウ糖
- 3 糖尿病連携手帳、お薬手帳

公益社団法人 日本糖尿病協会  
TEL 03-3514-1721  
http://www.niddo.or.jp

「災害時1,2,3」シート

**災害時に最低限準備しておくべきものリスト**

**大災害でも生き残るために**

**避難時のインスリンや血糖値管理時下やブドウ糖の取り方**

**準備しておきましょう**

**避難時の血糖値管理**

**避難時の食生活**

災害時ハンドブック

糖尿病連携手帳挟み込み型

防災リーフレット

**インスリンが必要な糖尿病患者さんのための 災害時サポートマニュアル**

よくお読みになった後は、非常用持ち出し袋等に保管し、災害時に携帯してください。

HbA1c Control  
糖尿病の未来はここで

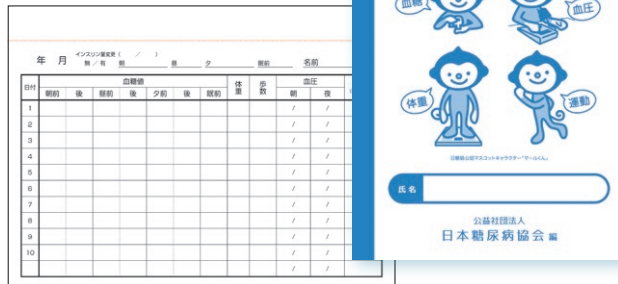
公益社団法人 日本糖尿病協会

災害時サポートマニュアル

両面印刷をして折りたたみ、糖尿病連携手帳に携帯できます。

## 自己管理ノートリニューアル

血糖自己測定をする患者さんに活用されている自己管理ノートを、4月に5年ぶりに全面改訂しました。これまでの血糖値だけを記録する形から、体重、血圧、歩数も記入できるように変更し、糖尿病とともに生きる毎日を総合的に記録するプラットフォームに生まれ変わりました。表紙には日糖協のマスコットキャラクター「マールくん」が採用され、毎日の「はかる」を応援しています。



## 小児糖尿病バーチャルキャンプ

2020年に続き、2年連続で全国の小児糖尿病サマーキャンプが中止となり、キャンパーや医療スタッフの絆の弱まりが心配されました。そこで、永年小児糖尿病キャンプをご支援いただくTOOTH FAIRYプロジェクト（日本財団、日本歯科医師会）のご協力、web上にキャンプ専用サイトを立ち上げ、10月に3回、オンラインキャンプを実施しました。（参加：20キャンプ、745人）参加者の中には入院中の病院から参加した子どももいて、時間と空間を飛び越えるオンラインならではのメリットを実感しました。



各キャンプ対抗のすごろくゲームを開催。血糖マネジメントについて、楽しみながら学ぶことができました。

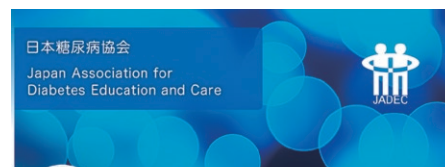


サイト上で日本全国のキャンパーやスタッフとつながることができました。

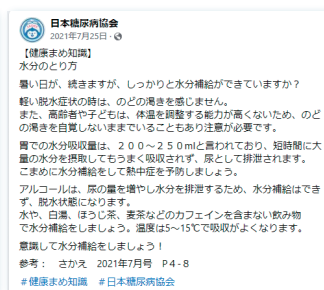
## facebook

日糖協の公式facebookは、7人の医療者が「facebookライター」として、ボランティアで記事を作成しています。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師の資格をもつライターの皆さんは、ご自分の日々の医療経験を生かして、その季節にあった新鮮で役立つ情報を毎日投稿してくださっています。その成果は、32,000人というファン数に現れており、デジタル世代への糖尿病の知識啓発に役立っています。

2021年度最も関心が高かった記事  
2021年7月25日「水分のとり方」リーチした人数約21,000



日本糖尿病協会



## 特集②

# 医療者の皆さん への支援

日糖協は、患者さんと医療者が手を携えて、糖尿病対策に取り組む団体です。設立当初は患者さんの会員が多数を占めていましたが、60年が経過し、現在は医療者の皆さんが会員の4割を占めるようになりました。そのため、近年は医療者の皆さんのスキルアップへの支援も強化しています。この領域も、2021年度はコロナ禍の影響を大きく受けましたが、工夫を凝らして前に進む取り組みが行われました。

## 第8回日本糖尿病療養指導学術集会

新型コロナの影響で1年延期ののち、7月24-25日に完全オンラインで開催しました。(テーマ：参加型の糖尿病医療／山田祐一郎会長)

過去の学術集会のハイライト、「スモールグループディスカッション」もプログラムに組み入れ、実地開催と遜色のない熱い議論が画面上で交わされていました。閉会後のオンデマンド配信も含めると1,614人が参加しました。



CDEミーティングやスモールグループディスカッションも行いました



## 糖尿病カンバセーション・マップ™

患者さんがグループになり、医療者のファシリテーションにより、糖尿病について語り合う糖尿病カンバセーション・マップは、コロナ禍で実施が非常に困難でした。しかし、マップを使いたい、という医療者の要望が多数寄せられたため、21年度はファシリテーター育成研修をオンライン上で実施するプログラムを開発。8回のオンライントレーニングに129人が参加しました。(日本イーライリリー株式会社協力)



オンライントレーニングのCM動画も作りました



オンライントレーニングでは動画も活用して、実地トレーニングと遜色のない講習会が行われました。



# 糖尿病療養指導 カードシステム<sup>®</sup> (注1)

カードシステムの理念や活用方法を学ぶ講習会も対面開催が困難なことから、新しい学びの機会が提供されました。講習会の内容を動画化し、視聴のみで一部のカードの使用が可能になるコースや、製薬企業との共催によるミニレクチャーなど、ニーズに応じて受講できる形を整えて、コロナ禍でのカードシステム普及に務めました。(ノボ ノルディスク ファーマ株式会社、大日本住友製薬株式会社、協和キリン株式会社 協力)

(注1)2022年度より糖尿病療養指導カードシステム<sup>®</sup>は糖尿病カードシステム<sup>®</sup>と名称が変更になります。



## 調査研究

従来の「若手研究者助成」「メディカルスタッフ育成研究助成」「高齢者糖尿病のQOL向上に関する臨床研究助成」に加えて、企業等の寄付による研究・教育基金を利用した、新たな糖尿病研究助成を開始しました。

21年度助成件数

日本糖尿病協会研究助成	
・若手研究者助成	10件
・メディカルスタッフ育成研究助成	6件
・高齢者糖尿病の生活の質向上に関する臨床研究助成	3件
日本糖尿病協会研究・教育基金研究助成	
	21件

### 2021年度 研究助成募集

日本糖尿病協会では、調査研究事業の一環として、研究助成を行っています。  
研究や日本糖尿病協会の事業に関心のある方は、あわせてご応募ください。

**日本糖尿病協会 研究助成**

広く新たな知見を収集し、糖尿病医療に関わる人材を育成することを目的として、研究助成を行います。

**若手研究者助成**

糖尿病医療に関わる若手研究者を支援し、21年度の糖尿病関連論文の発表を促します。

対象：46歳未満の若手研究者  
研究期間1年 100万円以内

**メディカルスタッフ育成研究助成**

研究に貢献するメディカルスタッフを支援し、育成を図ります。これからの臨床スキルアップも目指します。

対象：メディカルスタッフ  
研究期間1年 50万円以内

**高齢者糖尿病の生活の質向上に関する臨床研究助成**

糖尿病をもつ高齢者は年々増加しており、その生活の質を向上することは大きな課題となっています。この問題を解決するため、臨床研究を通じて高齢者糖尿病に関するエビデンスを蓄積します。

対象：国内の医師・メディカルスタッフ・研究者  
研究期間3年 500万円以内

**NEW 日本糖尿病協会研究・教育基金 研究助成**

糖尿病医療の発展を目的とした寄付を募得する基金により、国内の大学、医療機関等で実施する糖尿病に関する幅広い調査・研究を支援し、糖尿病医療の発展につなげます。

対象：国内の医師・メディカルスタッフ・研究者  
研究期間1年 100万円以内  
※寄付の募集は、実施機関が寄付受付窓口にて行います。

応募期間 2022年1月17日まで [詳しくは日本糖尿病協会ホームページで](#)

## 登録医・療養指導医<sup>(注2)</sup>・ 登録歯科医

日糖協は、糖尿病医療の質の向上を目指して、糖尿病診療に携わるすべての医師を対象とする登録医・療養指導医制度を2007年から、糖尿病患者さんの歯科受診促進を目指す登録歯科医制度を2008年から展開しています。

21年度認定数

登録医	1,401人
療養指導医	3,346人(内、登録医からの昇格：528人)
登録歯科医	2,423人

(注2)2022年度より療養指導医は糖尿病認定医と名称が変更になります。

## eラーニング

2018年に公開した日糖協eラーニングは、基本のコンテンツに加えて療養指導学術集会の教育講演や糖尿病領域EXPERT社員向けなど、新たなカテゴリが追加され、ますます充実しました。

コンテンツ数

医療者向け	51
糖尿病関連企業EXPERT社員向け	61

利用者の内訳

登録医・療養指導医	約400人
登録歯科医	約1,900人
CDEL養成団体	31団体、約3,000人
糖尿病関連企業社員	21社、約6,000人

## 特集③

# 企業との 協力事業

日糖協は、糖尿病領域で活躍する製薬・医療機器企業にお声掛けし、「企業委員会」を組織しています。委員会に参加する35社は、社会貢献の視点から、日糖協とともに市民向けの糖尿病啓発活動を実施したり、糖尿病連携手帳などの糖尿病協会グッズの配布に協賛してくださっています。

協力の形は多岐にわたっています。2021年度の主な事業をご紹介します。

## 監修事業

### 企業が制作する患者さん向け冊子の監修

「心も体も元気にしたい！料理してみませんか？」

【小野薬品工業株式会社、株式会社おいしい健康】



### 企業が提供するサービスの監修

ANA特別機内食リニューアル

【全日本空輸株式会社】



健康を意識する人向けの機内食のメニュー開発に協力。記者発表会にも参加しました。



### 企業が展開する市民向けキャンペーンの監修

「どうなる？ どうする？ 糖尿病」

【日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、日本イーライリリー株式会社】



## 共催事業

### 医療者向け糖尿病食事療法セミナー

## 「JADEC Cooking Web Seminar」

【小野薬品工業株式会社】

参加者 4,540名



### 小児糖尿病の子ども向けコンクール

## 「小児糖尿病サマーキャンプ スケッチ&作文コンクール」

【ノボ ノルディスク ファーマ株式会社】



コロナ禍でサマーキャンプが中止になっても、キャンプの絆がなくなることを願って、糖尿病の子ども達に、楽しかったキャンプの思い出をスケッチや作文にしてもらいました。初めてキャンプに参加した子からベテランキャンパーまで、それぞれのキャンプ愛が詰まった作品が寄せられました。

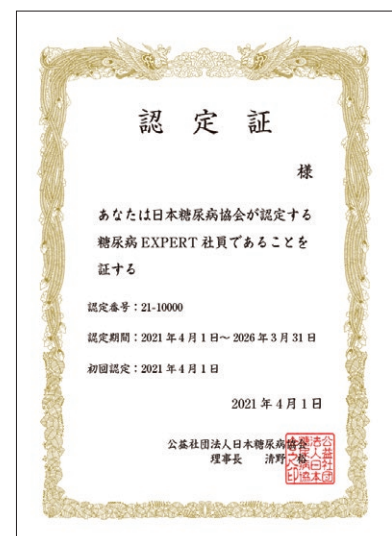
## 教育事業

### 糖尿病関連企業EXPERT社員認定制度

2020年度にスタートした「糖尿病関連企業EXPERT社員」認定。企業委員会参加企業の社員を対象に、日糖協提供のeラーニングでより高度な糖尿病医療の知識を得て、チーム医療の担い手の一人として活躍していただくための制度です。21年度は4回認定試験を実施し、361名が受験しました。前年度の認定者とあわせて約2,000人のEXPERT社員が誕生することになります。合格者には、日糖協から認定証と認定バッジが授与されました。



EXPERT社員 バッジ



EXPERT社員 認定証

世界糖尿病デー  
国内の活動

2021年の世界糖尿病デーも、新型コロナウイルスから自由になることはできず、制限のかかる中での活動となりました。しかし、世界糖尿病デー制定15周年、そしてインスリン発見100年の節目の年ということもあり、感染対策を徹底しながら、工夫を凝らした啓発活動を実施しました。



2021年のシンボルライトアップ  
ウォーターフロント(メリケンパーク)  
兵庫県神戸市

オンラインシンポジウム

インスリン発見100年にちなみ、世界糖尿病デー実行委員会、帝人ファーマ株式会社との共催で、市民向けのオンラインシンポジウムを実施しました。50歳～70歳代の1400人が視聴し、食事の際の食べる順番や運動のポイントなど、翌日からすぐに実践できる内容について学びました。

世界糖尿病デー2021 オンラインシンポジウム  
インスリン発見100年、進化を続ける  
糖尿病治療  
最前線  
世界糖尿病デー  
15周年記念  
11月14日(日)  
13:00-14:35(予定)  
※オンライン視聴  
参加無料  
共催：世界糖尿病デー実行委員会、  
公益財団法人日本糖尿病学会、  
帝人ファーマ株式会社  
監修：朝日新聞社

「糖尿病とともに生きる皆さんへ」  
～血糖コントロールの実際を語って～」  
「いざ起きたい糖尿病治療の最新情報」  
世界糖尿病デー15周年記念として、糖尿病患者の生活の質を向上させるためのセッションを行います。

「血糖コントロールの実際を語って～」  
糖尿病と診断された場合、血糖コントロールが最も重要視されています。血糖コントロールが適切に行われれば、合併症のリスクを減らすことができます。血糖コントロールの実際について、医師と患者の両方の視点から話を聞きましょう。

「いざ起きたい糖尿病治療の最新情報」  
最新治療薬の登場により、糖尿病治療の選択肢はますます広がっています。最新の治療法や、血糖コントロールの目安などについて、医師の最新情報を聞きましょう。

オンラインイベント申し込みはこちら

申込フォーム  
<https://que.digital.sasabi.com/psost/>

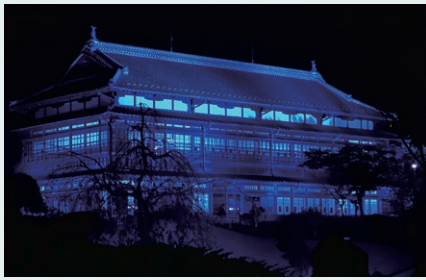
本イベントは、世界糖尿病デー実行委員会、公益財団法人日本糖尿病学会、帝人ファーマ株式会社との共催です。  
お問い合わせは、世界糖尿病デー実行委員会までご連絡ください。

世界糖尿病デー実行委員会  
〒100-8351 東京都千代田区千代田1-1-1  
〒100-8351 東京都千代田区千代田1-1-1  
〒100-8351 東京都千代田区千代田1-1-1

©開催日 11月8日(月) 23:59

webセミナー

帝人ファーマ株式会社との共催で、11月12日に医療者向けのオンラインセミナーを実施しました。日糖協の清野裕理理事長が、糖尿病医療に潜むスティグマを生む要因を排除し、糖尿病患者さんが積極的に治療に向かえる環境づくりこそがパシエントセンタードケアに必要と講演で強調しました。(視聴者：26,833人)



群馬・臨江閣



北海道・札幌市時計台



島根・出雲大社



山形・旧米沢高等工業学校本館



岩手・開運橋



島根・出雲大社



長野・善光寺



静岡・富士川サービスエリア大観覧車  
フジスカイビュー



京都・伏見桃山城



香川・丸亀城



宮崎・宮崎県庁本館



world diabetes day  
14 November



静岡・富士川サービスエリア大観覧車  
フジスカイビュー

## アニメ動画

情報伝達の多くが動画で行われる現状を受けて、インスリン発見100周年を周知するアニメ動画を制作しました。世界で初めてインスリンを投与された女の子が現代の1型糖尿病の男の子とインスリン治療の歴史の進歩を語り合う内容で、7分のアニメーションにして日糖協のyoutubeチャンネルで配信しました。

世界糖尿病デー アニメ動画  
「インスリン治療の過去と未来 ～タイムトラベルを一緒に～」



声の出演：真壁圭 千葉航平  
漫画/脚本/キャラクターデザイン：権原かつぱ(ういろーず漫画製作所)  
監督：沢野久美子(關東労務病院) / 世界糖尿病デー実行委員会

Teijin Expert clinician's Lecture  
世界糖尿病デー  
全国糖尿病週間  
WEBセミナー

講演 先生におかれましてはご多忙中とは存じしております。  
また、予報は弊社製品に関する特約の掲載を希望しております。  
この際、下記要領にて医師や医療関係者を対象としたWeb講演会を企画いたしました。  
ご多忙の許、誠に恐縮ではございますがご参加の旨をよろしくお願い申し上げます。 謹白

日時 2021年11月12日(金) 19:00～19:40

視聴方法 本Web講演会は先生ご自身のパソコンやスマートフォン、タブレットなどのデバイスでのみ視聴いただけます。

講演 糖尿病患者の真の幸せライフ  
実現のために

講師 清野 裕先生  
公益社団法人日本糖尿病協会 理事長  
関西電力病院 総長

視聴URL  
<https://seminar.vcube.com/live/7c8f0a8e5493b66748da99786eca0531b52bab4e5>

上記URLをクリックしてもご入室されない場合は、您が入ります「視聴URL」をコピーして頂き、ブラウザで開きお読みいただけますようお願いいたします。  
視聴URLはブラウザに保存し、視聴を開始する際に貼り付けます。  
ご参加の準備が完了しましたら、お申し込みの受付が開始されます。  
お申し込みの準備が完了しましたら、お申し込みの受付が開始されます。  
お申し込みの準備が完了しましたら、お申し込みの受付が開始されます。  
お申し込みの準備が完了しましたら、お申し込みの受付が開始されます。

共催：公益社団法人日本糖尿病協会/株式会社アールファーマ株式会社

# 2021年度事業一覧

## 1 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

### 【市民、患者向け】

#### 1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行

月刊の協会誌として、患者、家族、糖尿病予備群に対する糖尿病の正しい知識の情報提供と啓発を行った。発行部数は、約70,000部/月となった。社会のデジタル化対応と会員獲得を目指して、電子書籍化とオンライン販売を検討した。

#### 1-2 糖尿病関連書籍の発行

啓発活動の一環として「糖尿病食事療法のための食品交換表」(690部)、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」(20部)、「糖尿病腎症の食品交換表」(10部)、「糖尿病治療の手びき」(440部)を割引販売した。

#### 1-3 全国糖尿病週間の実施

11月8日から14日の一週間を全国糖尿病週間とし、日本糖尿病学会との共催で、各都道府県糖尿病協会で糖尿病に関する啓発活動をオンライン中心に実施した。今年度から、全国糖尿病週間と世界糖尿病デーのテーマを共通化し、糖尿病週間の標語募集を取りやめた。

#### 1-4 世界糖尿病デー関連のイベントの実施

日本糖尿病学会・本協会が構成する世界糖尿病デー実行委員会に協力し、世界糖尿病デーの認知向上とインスリン発見100年関連の諸事業を実施した。

#### 1-5 Team Diabetes Japanの運営

例年参加する国内外のマラソン大会が中止となったため、地域での活動を中心に、HPに活動報告を掲載した。

#### 1-6 ウォークラリーの実施

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本年の開催をすべて中止した。

#### 1-7 KiDSプロジェクトの展開

教職員へのKiDSプロジェクト周知のため、サノフィ株式会社とともに紹介動画を作成し、関連学会等で配信した。

#### 1-8 就労と治療の両立支援

2022年2月に予定していた中部ろうさい病院と共催の「第6回勤労者医療フォーラム」が延期となった。

#### 1-9 デジタルツールによる知識の普及

- HPに開設した新型コロナウイルス感染症対策の特集ページについて、適宜情報をアップデートした。
- 公式youtubeチャンネルにインスリン発見100年記念アニメ「インスリン治療の過去と未来」を配信した。
- 高齢糖尿病患者を対象とする学習アプリを、日本財団の助成を得て開発した。

#### 1-10 糖尿病関連企業EXPERT社員認定制度

2021年12月に2回、2022年3月に2回認定試験を実施し、361人が受験した。20年度からの累計認定者は、1,991人の上った。

#### 1-11 地方自治体との連携

糖尿病性腎症重症化予防において、糖尿病連携手帳や食事療法冊子の販売を通じて、自治体の糖尿病対策事業や特定保健指導で連携した。

### 【医療者向け】

#### 1-12 「DM Ensemble」の発行

医療者を対象とする「糖尿病療養指導のためのDM Ensemble」を4冊発行した。平均発行部数は約3,200部となった。発行10年を経て、リニューアルに向けて編集内容の刷新を検討した。

#### 1-13 登録医・療養指導医・登録歯科医制度の展開

糖尿病専門医と非専門医、歯科医師との連携強化を図った。登録者数は、日本糖尿病協会登録医：1,401人、療養指導医：3,346人(内、登録医からの昇格：528人)、登録歯科医：2,423人となった。

#### 1-14 日糖協CDEネットワークの運営

地域糖尿病療養指導士(CDEL)養成団体の活動を支援するため、各ブロックに運営連絡協議会を設置し、本部が会議開催支援を行った。第8回日本糖尿病療養指導学術集会で活動報告セッション

ンを実施した。日糖協HPに各団体の紹介ページを新設し、活動の広報に協力した。

1-15 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した療養指導の普及  
ファシリテーターを育成するオンライントレーニングを8回実施し、医療者129人が参加した。オンライントレーニングで使用するカンパセーション・マップのファシリテーションにかかる動画を5本制作した。本事業には、日本イーライリリー株式会社の協力を得た。

1-16 糖尿病療養指導カードシステム®を活用した療養指導の普及  
療養指導カードシステムの普及に向け、動画視聴のみでカードのダウンロードが可能となる講習制度を新設した。視聴によるダウンロード数は、34件となった。自治体の保健師向けの糖尿病腎症重症化予防カードセットの開発にあたった。カードシステムの全国普及に向けて、製薬企業との共催ミニレクチャーを20件実施した。本事業には、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社、大日本住友製薬株式会社、協和キリン株式会社の協力を得た。

#### 1-17 日糖協eラーニングの運営

糖尿病教育用eラーニングのコンテンツを充実させた。掲載コンテンツは、医療者向け：51、糖尿病関連企業EXPERT社員向け：61となった。利用者の内訳は、登録医・療養指導医：約400人、登録歯科医：約1,900人、CDEL養成団体：31、約3,000人、糖尿病関連企業社員：21社、約6,000人となった。

#### 1-18 日本糖尿病療養指導学術集会の開催

新型コロナの感染拡大を受けて、7月24～25日に完全オンラインで開催し、7月28日～8月31日までオンデマンド配信を行った。会長：山田祐一郎、テーマ「参加型の糖尿病医療」、参加者数：1,614人(内、会期後登録者：202人)、総コンテンツ閲覧数：22,545(平均16.5コンテンツ/人)

#### 1-19 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

各地の医師会・歯科医師会や企業が開催する医療従事者を対象とした糖尿病に関する講習会を登録医・療養指導医・登録歯科医向け講習会として296件認定した。

#### 1-20 医療者・介護支援者の連携強化

高齢糖尿病患者の在宅支援を行う訪問看護師向けの糖尿病講習会に講師を派遣した。2回開催し、約60人が参加した。帝人ヘルスケア株式会社の事業に協力した。

#### 1-21 動画資料による学習支援

医療スタッフ向けの教育DVD「チームで考える！療養指導のポイント」を利用したeラーニングの制作や、糖尿病カンパセーション・マップ™、糖尿病療養指導カードシステムの動画制作を行った。

## 2 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

### 2-1 調査研究

- 経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究(UNITE Study)  
学術誌への投稿に向けて論文を準備した。
- インスリン製剤とシタグリブチン併用による有用性の検討-前向き観察研究-(I-UNITE Study)  
データ解析を行い、学術誌への投稿に向けて論文を準備した。
- トホグリフロジンの安全性および有効性の検討-前向き観察研究-(AYUMI)  
データ解析を行い、学会への演題応募ならびに学術誌への投稿に向けて論文を準備した。

### 2-2 研究助成

- 若手研究者助成に10本の研究を採択した。
- メディカルスタッフ育成研究助成に6本の研究を採択した。
- 高齢者の生活の質向上に関する研究助成に3本の研究を採択した。
- 新設した「糖尿病研究・教育基金」を利用して、糖尿病に関する研究助成を立ち上げ、21本の研究を採択した。

### 2-3 「人を対象とする医学研究」の倫理審査

糖尿病療養指導のエビデンス作成に向けたメディカルスタッフの研究実施環境の整備として、糖尿病に関する研究の倫理審査を5件実施した。

## 3 糖尿病の患者及び家族に対する療養支援事業

### 3-1 糖尿病友の会の活動支援

新型コロナの影響で友の会活動を自粛する施設が多く、休会7件、退会36件となった。一方で新規に設立された友の会は17件となった。

### 3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

- 糖尿病連携手帳を20社の協賛を得て1,492,901部発行し、医療機関を通じて患者さんに配布した。また、糖尿病性腎症重症化予防の取り組みで、162自治体が19,901冊の連携手帳を活用した。
- 4月に自己管理ノートを改訂し、血糖、血圧、体重、歩数が記載できる総合的な記録手帳とした。製薬・医療機器製造企業10社の協賛を得て、1,287,000部発行した。
- 糖尿病IDカードは5社の協賛を得て、37,000部発行した。
- 食事療法を平易に解説した冊子シリーズ「糖尿病食事療法のあいうえお」(265,000部)「糖尿病腎症の食事療法のかきくけこ」(200,000部)を制作し、製薬企業の協賛により医療機関に配布したほか、自治体の保健指導でも活用された。

### 3-3 小児糖尿病対策

- 小児糖尿病キャンプの主催  
糖尿病患児の医療教育を目的とするオンラインキャンプ「小児糖尿病バーチャルキャンプ」を、TOOTH FAIRYプロジェクト(日本財団・日本歯科医師会)の支援を受けて10月に3回実施した。参加キャンプ数20、参加者総数745人となった。
- 各地域での小児糖尿病患児の療養支援を目的とする小規模イベントに、総額5,973,000円の補助金を支出した。
- 1型糖尿病に関する移行期委員会への協力  
移行期医療チェックリストと移行期医療コーディネーターリストをHPIに掲載し、小児科から内科へのスムーズな移行を支援した。
- 次世代リーダー育成  
小児糖尿病バーチャルキャンプのコンテンツ制作にキャンプOBOGや学生の参加を促し、キャンプ運営に関わる動機付けを行った。
- 各地のキャンプでオンラインミニキャンプを実施し、患児や家族同士の交流を促進した。

### 3-4 インスリンメンターの活用

小児糖尿病バーチャルキャンプにインスリンメンター6人が参加し、プログラムの司会やオンライン技術サポートを行った。

## 4 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

### 4-1 IDF、IDF-WPR

- 13<sup>th</sup> IDF-WPR Congress (7月16-18日オンライン開催)に参加した。

### 4-2 AASD

- 運営助成金(4,000,000円)を支出するとともに、事務局業務、年次学術集会(13<sup>th</sup> AASD Scientific Meeting: 10月7-9日オンライン開催)を支援した。
- AASDがアジア地域対象で実施した栄養プロジェクトに協力した。

### 4-3 中央アジアプロジェクト

中央アジア地域の糖尿病医療支援の目的で、カザフスタンの若手研究者の日本留学を支援した。

## 5 その他本協会の目的を達成するために必要な事業

### 5-1 会員増強

個人会員の会費納入にクレジット決済を導入し、利便性の向上を図るとともに、メールアドレス登録を促し、多様な情報伝達手段を確保した。

### 5-2 都道府県糖尿病協会の運営支援

地域の糖尿病対策の充実および会員増強を目指し、47都道府県糖尿病協会に対し地域活動費として54,090,833円を支出した。糖尿病週間の活動支援として、各種資材を計24,718部提供した。

### 5-3 サポーター制度の周知

個人の賛助会員であるサポーターは16,697人となった。

### 5-4 他団体との連携

- CDEJおよびCDEL  
各地の「地域糖尿病療養指導士」(CDEL)養成団体の活動を支援するため、41団体に対し計23,300,000円の補助金を支出した。CDEネットワークにブロック別運営連絡協議会を設置し、会議運営を支援した。
- 日本歯科医師会  
医科歯科連携促進のため、eラーニングの学習コンテンツを充実させて登録歯科医の登録・更新増を図った。
- 日本糖尿病対策推進会議  
日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、「糖尿病治療のエッセンス」改訂作業に協力した。

### 5-5 災害時危機管理対策

- 糖尿病医療支援チーム(DiaMAT)育成  
日本糖尿病学会・日糖協合同DiaMAT推進委員会を設置し、組織化や災害教育の進め方について検討した。DM Ensemble Vol.10 No.3で災害時の糖尿病医療の特集を組み、DiaMATの取り組みを紹介した。
- 防災資材の配布  
震度5以上の地震発生時には、HPで防災資材をまとめたページをトップページに上げるなど、機動的な情報提供を行った。

### 5-6 広報事業

- HPに26本の新着情報を掲載した。
- HPIにCDEネットワークのページを新設し、各地のCDELの活動を紹介した。
- facebookは7人のfacebookライターにより、329本の記事を配信した。
- 公式youtubeチャンネルに、2本の動画を掲載した。
- プレスリリースを3本配信した。

### 5-7 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

- 在宅医療廃棄物適正処理に関する患者向けリーフレットを関連企業とともに制作し、医療機関を通じて配布した。DM Ensemble Vol.10 No.4で医療者向けの注意喚起を行った。
- 血糖自己測定器の保守点検の啓発リーフレットや資材を関連企業とともに制作し、医療者に配布するとともに、現状把握のアンケートを実施した。

### 5-8 製薬・医療機器・その他企業との連携

- 企業委員会参加の35社とともに、糖尿病発症・重症化予防の啓発事業を実施した。
- 各企業が患者向けに制作する情報提供資材の事前検証を行った。

### 5-9 アドボカシー事業

- 世界糖尿病デーと全国糖尿病週間のテーマを「偏見にNo! 糖尿病を持つ人はあなたと同じ社会で活躍できる人です」とし、糖尿病に対する偏見解消を訴えた。
- 医療者、患者からなる有識者会議で病名変更の是非を議論した。
- 糖尿病の医療用語においてスティグマを生じる可能性のある用語の見直しを、協会全体で医療者に働きかけることとした。

### 5-10 60周年事業

- 新型コロナの影響で、記念事業の実施を見合わせた。
- 糖尿病の病名に関するアンケートを医療者、患者に対して実施し、要望の把握に努めた。

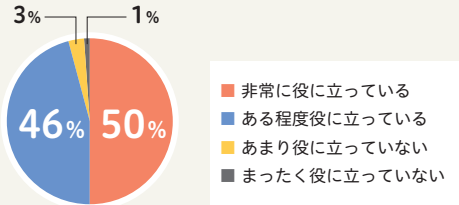
# 発行雑誌紹介

日本糖尿病協会では、協会誌として「さかえ」や「DM Ensemble」を発行し、糖尿病治療の正しい知識を提供しています。

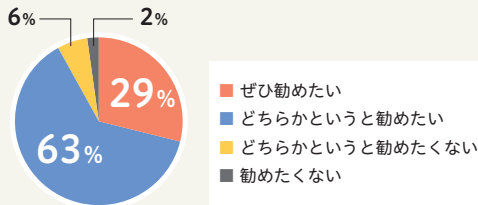
月刊糖尿病ライフ「さかえ」 月刊／定価：550円(会員は無料)／64ページ／A4変型判

## 「さかえ」読者アンケート

Q2.「さかえ」は糖尿病療養生活の役に立っていますか？



Q8.「さかえ」を人に勧めたいと思いますか？



■さかえ4月号  
特集 睡眠時無呼吸候群と糖尿病の関係  
特別企画1 新しい超速効型インスリン製剤について  
特別企画2 インスリンの歴史



■さかえ5月号  
特集1 心不全と糖尿病の新たな関係  
特集2 新型コロナウイルス感染症について  
特別企画 糖尿病患者さんのためのアルコール学入門



■さかえ6月号  
特集 糖尿病とむくみ  
特別企画1 GLP-1受容体作動薬について  
特別企画2 どこでもだれでもサイクルライフ



■さかえ7月号  
特集1 熱中症の対策と予防  
特集2 糖尿病と肝臓-2型糖尿病患者さんに多いNAFLDとは？  
特別企画1 「人生会議」をしてみませんか



■さかえ8月号  
特集1 心療内科医から見た糖尿病  
特集2 糖尿病と目の病気  
特別企画 健康二次被害を防ごう



■さかえ9月号  
特集1 糖尿病に合併した高血圧  
特集2 災害時の対策  
特別企画1 2021年度日本糖尿病協会賞受賞に寄せて  
特別企画2 高齢糖尿病患者さんの目標BMIは？



■さかえ10月号  
特集 糖尿病から腎臓を守る“くすり”の話  
特別企画1 糖尿病治療のニューノーマル  
特別企画2 回復期リハビリテーションとは



■さかえ11月号  
特集1 がんに備える—糖尿病患者として知っておきたいがんのこと—  
特集2 重症低血糖に備える  
特別企画 サルコペニアとダイナペニア



■さかえ12月号  
特集1 妊娠と糖尿病  
特集2 糖尿病と皮膚疾患



■さかえ1月号  
巻頭特別インタビュー 阪神タイガース・岩田稔さん  
特集 糖尿病患者さんとインフルエンザ  
特別企画1 健康寿命を延ばそう  
特別企画2 お雑煮を楽しもう！



■さかえ2月号  
特集 糖尿病と“しびれ”  
特別企画1 新生活へ向けて  
特別企画2 WHO身体活動および座位行動に関するガイドライン

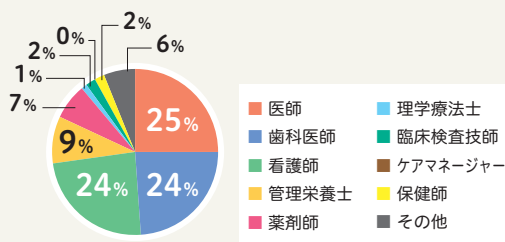


■さかえ3月号  
特集1 難聴と糖尿病  
特集2 脂肪肝の新しい概念MAFLDとは？  
特別企画1 ウィズコロナ、ポストコロナの糖尿病友の会活動  
特別企画2 オンラインでつながろう！

## 糖尿病療養指導のためのDM Ensemble

医療者向け／季刊／定価：990円(会員は半額)／64ページ／A4判

### DM Ensemble購読者職種内訳



Vol.10 No.1 (2021年5月発行)  
特集 最新運動療法事情

Vol.10 No.2 (2021年8月発行)  
特集 糖尿病治療とポリファーマシー

Vol.10 No.3 (2021年11月発行)  
特集 災害に強い糖尿病体制を作る

Vol.10 No.4 (2022年2月発行)  
特集 糖尿病の心理的支援



# 糖尿病協会グッズ紹介

日本糖尿病協会では、糖尿病関連企業の協賛により治療に役立つ糖尿病協会グッズを発行。医療施設を通じて患者さんに無料で配布しています。

## 糖尿病連携手帳

1,492,901部発行

検査値や治療内容などを記録し、地域連携・病診連携に活用される手帳



## 自己管理ノート

1,287,000部発行

血糖値、血圧、体重、歩数を記録し、主治医と情報共有する複写式のノート



## 糖尿病患者用IDカード

37,000部発行

緊急時に糖尿病であることを周囲に知らせるカード

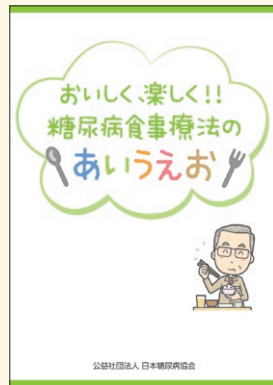


(会員限定)

## おいしく、楽しく!! 糖尿病食事療法の あいうえお

265,000部発行

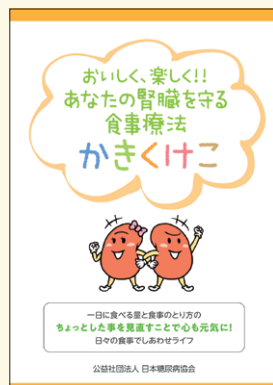
糖尿病の食事療法をわかりやすくまとめた実践的な冊子



## おいしく、楽しく!! あなたの腎臓を守る 食事療法かきくけこ

200,000部発行

糖尿病性腎症の食事療法の工夫を紹介する冊子

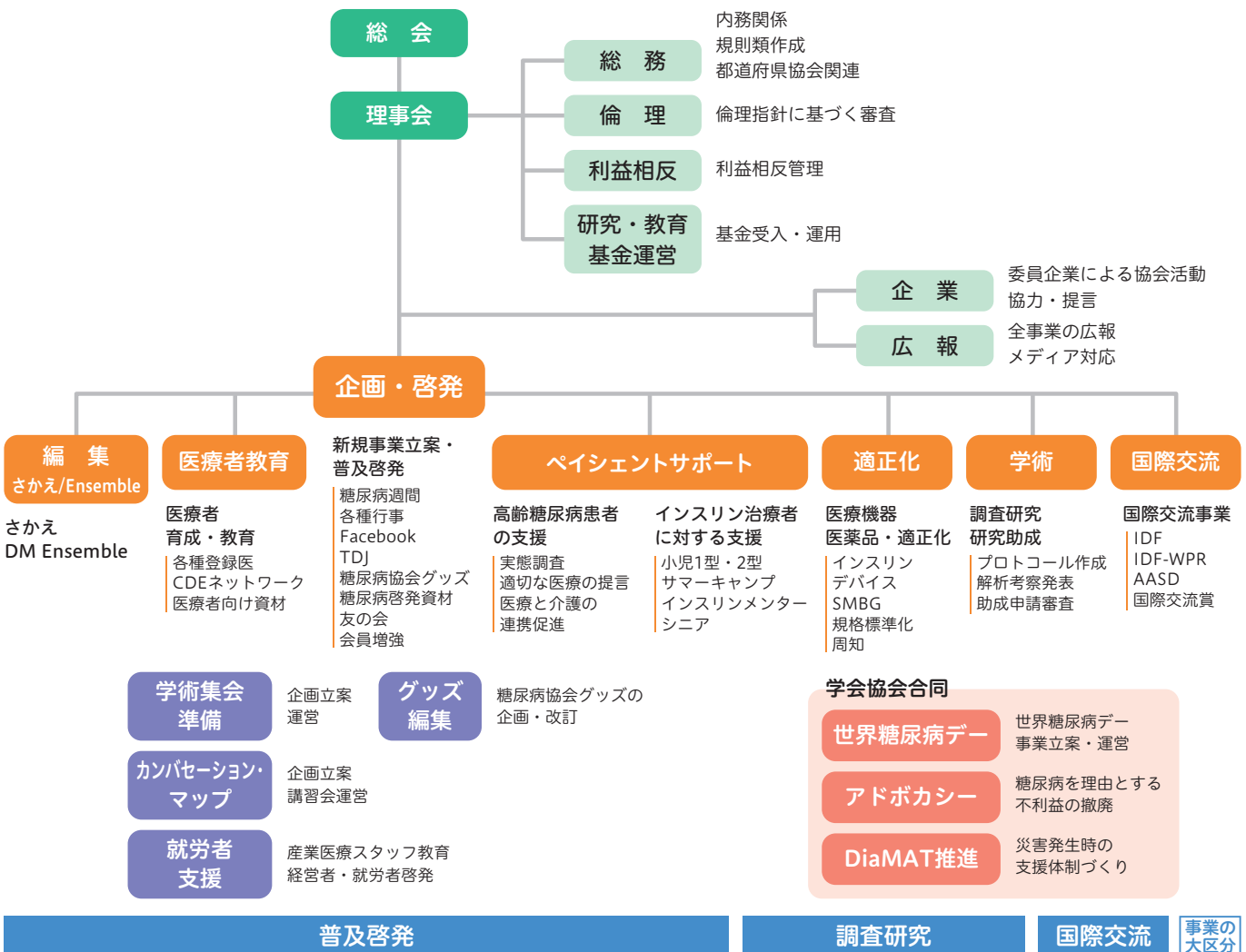


# 日本糖尿病協会と連携する諸団体

日本糖尿病協会は、47の都道府県糖尿病協会と連携して全国で啓発活動を展開しています。また日本糖尿病学会や日本医師会、日本歯科医師会など日本国内の主要な糖尿病関連団体と密接な関わりを持つほか、海外の諸団体とも交流・連携を行い、糖尿病の克服をめざしています。



## 日本糖尿病協会組織図



## 2021年度 役員名簿

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
理事長	清野 裕	理事	八幡 和明	理事	内潟 安子	理事	津村 和大
業務執行理事	安西 慶三	理事	中村 二郎	理事	寺内 康夫	理事	堀田 饒
業務執行理事	稲垣 美智子	理事	矢部 大介	理事	太田 謙司	理事	松原 謙二
業務執行理事	戸所 文生	理事	稲垣 暢也	理事	上原 茂	理事	矢島 鉄也
業務執行理事	中園 徳斗士	理事	権野 博	理事	遅野井 健	理事	渡邊 倫久
業務執行理事	山田 祐一郎	理事	南條 輝志男	理事	門脇 孝	監事	岩本 安彦
理事	種田 紳二	理事	佐藤 利昭	理事	岸 栄治	監事	長田 信也
理事	赤井 裕輝	理事	中村 慶子	理事	熊谷 勝子		
理事	渥美 義仁	理事	小林 邦久	理事	坂本 辰蔵		
理事	三村 正裕	理事	平田 龍二	理事	幣 憲一郎		

## 2021年度 決算書

### 正味財産増減計算書 2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：円)		(単位：円)	
科 目	当年度	科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部		2. 経常増減の部	
1. 経常増減の部		(1) 経常外収益	
(1) 経常収益		経常外収益計	0
特定資産運用益	7,371	(2) 経常外費用	
受 取 会 費	130,362,849	経常外費用計	0
事 業 収 益	539,550,311	当期経常外増減額	0
調 査 研 究 収 益	611,704	他会計振替前当期一般正味財産増減額	10,437,068
受 取 寄 付 金	28,343,729	一般正味財産期首残高	573,325,156
雑 収 益	28,038,025	一般正味財産期末残高	583,762,224
経常収益計	726,913,989	II 指定正味財産増減の部	
(2) 経常費用		受 取 助 成 金	0
管 理 費	30,453,545	受 取 寄 付 金	35,154,676
事 業 費	686,023,376	調 査 研 究 収 益	196,828,963
経常費用計	716,476,921	一般正味財産への振替額	△190,139,620
評価損益等調整前当期経常増減額	10,437,068	当期指定正味財産増減額	41,844,019
当期経常増減額	10,437,068	指定正味財産期首残高	397,810,603
		指定正味財産期末残高	439,654,622
		III 正味財産期末残高	1,023,416,846

# 日本全国に広がるネットワーク

## 都道府県糖尿病協会一覧

### 北海道

北海道糖尿病協会  
☎ 011-231-4032  
医療法人 萬田記念病院

### 東北

青森県糖尿病協会  
☎ 0172-39-5062  
弘前大学大学院医学研究科  
内分泌代謝内科学講座

秋田県糖尿病協会  
☎ 018-884-6769  
秋田大学大学院医学系研究科  
代謝・内分泌内科学

岩手県糖尿病協会  
☎ 019-662-1622  
西松園内科医院

山形県糖尿病協会  
☎ 023-682-1111  
済生会山形済生病院

宮城県糖尿病協会  
☎ 022-717-7611  
東北大学加齢医学研究所プロジェクト棟5F  
糖尿病代謝科

福島県糖尿病協会  
☎ 024-925-1188  
太田西ノ内病院 庶務課

### 関東甲信越

茨城県糖尿病協会  
☎ 029-353-2800  
医療法人健清会 那珂記念クリニック

群馬県糖尿病協会  
☎ 027-220-7111 (内8121)  
群馬大学医学部附属病院 内分泌糖尿病内科

栃木県糖尿病協会  
☎ 0282-87-2150  
獨協医科大学病院 内分泌代謝内科

東京都糖尿病協会  
☎ 03-6892-2962  
東京都糖尿病協会事務局

千葉県糖尿病協会  
☎ 043-245-8808  
千葉県糖尿病協会事務局

埼玉県糖尿病協会  
☎ 048-681-0526  
自治医科大学附属さいたま医療センター

神奈川県糖尿病協会  
☎ 080-8815-1234  
川崎市立川崎病院 糖尿病内科

山梨県糖尿病協会  
☎ 055-273-9602  
山梨大学医学部 糖尿病・内分泌内科

長野県糖尿病協会  
☎ 0263-39-7060  
長野県糖尿病協会事務局

新潟県糖尿病協会  
☎ 025-368-9026  
新潟大学医歯学総合病院  
血液・内分泌・代謝内科医局

### 中部

静岡県糖尿病協会  
☎ 054-247-6134  
静岡県立総合病院 栄養管理室

愛知県糖尿病協会  
☎ 0561-63-1682  
愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科

三重県糖尿病協会  
☎ 059-331-2000  
JCHO四日市羽津医療センター

岐阜県糖尿病協会  
☎ 058-230-6378  
岐阜大学医学部附属病院 糖尿病代謝内科

富山県糖尿病協会  
☎ 076-433-8843  
富山赤十字病院 医療社会事業部

石川県糖尿病協会  
☎ 0761-21-0965  
石川県糖尿病協会事務局

福井県糖尿病協会  
☎ 0776-24-2410  
医療法人初生会福井中央クリニック 内科

### 近畿

滋賀県糖尿病協会  
☎ 077-522-4131  
大津赤十字病院 栄養課

京都府糖尿病協会  
☎ 070-5267-1929  
京都府立医科大学附属病院  
内分泌・免疫内科医局

大阪府糖尿病協会  
☎ 06-6879-3743  
大阪大学大学院医学系研究科  
内分泌代謝内科学講座

和歌山県糖尿病協会  
☎ 073-445-9436  
和歌山県立医科大学附属病院 第1内科医局

奈良県糖尿病協会  
☎ 0744-22-3051  
奈良県立医科大学 糖尿病・内分泌内科学

兵庫県糖尿病協会  
☎ 078-382-5868  
神戸大学大学院医学研究科内科学講座  
糖尿病・内分泌内科学部門

### 中国・四国

岡山県糖尿病協会  
☎ 086-235-7235  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究所  
腎・免疫・内分泌代謝内科学教室

広島県糖尿病協会  
☎ 082-257-1784  
広島大学大学院医学系科学研究科  
糖尿病・生活習慣病予防医学

鳥取県糖尿病協会  
☎ 0859-24-1151  
住吉内科眼科クリニック

島根県糖尿病協会  
☎ 0852-61-9854  
松江赤十字病院 栄養課

山口県糖尿病協会  
☎ 0836-22-2251  
山口大学医学部 第三内科

香川県糖尿病協会  
☎ 087-891-2230  
香川大学医学部  
内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学講座

徳島県糖尿病協会  
☎ 088-633-7587  
徳島大学先端酵素学研究所  
糖尿病臨床・研究開発センター

高知県糖尿病協会  
☎ 088-880-2343  
高知大学医学部  
内分泌代謝・腎臓内科学（第二内科）

愛媛県糖尿病協会  
☎ 080-5667-2786  
愛媛大学大学院医学系研究科  
糖尿病内科

### 九州

福岡県糖尿病協会  
☎ 092-631-0656  
九州大学医学部 病態機能内科学（第2内科）

大分県糖尿病協会  
☎ 097-586-5089  
大分大学医学部 看護学科

佐賀県糖尿病協会  
☎ 0952-34-2551  
佐賀大学医学部 看護学科

長崎県糖尿病協会  
☎ 095-819-7261  
長崎大学病院 第一内科

熊本県糖尿病協会  
☎ 096-365-5414  
熊本県糖尿病協会事務局

宮崎県糖尿病協会  
☎ 0985-22-8015  
平和台病院1階

鹿児島県糖尿病協会  
☎ 099-275-6436  
鹿児島大学病院  
糖尿病・内分泌内科医局

沖縄県糖尿病協会  
☎ 098-886-6955  
医療法人陽心会

2021年に滋賀県糖尿病協会は50周年、千葉県及び岡山県糖尿病協会は60周年を迎えました。発行された記念誌を紹介します。

## 滋賀県糖尿病協会50周年記念誌発行までの道のり

滋賀県糖尿病協会 事務局 小野 由美

滋賀県糖尿病協会は2021年に50周年を迎えました。発行にあたり、ご祝辞、患者体験談、滋賀県糖尿病ウォークラリー、CDE滋賀の活動報告、患者会の紹介、滋賀県医師会糖尿病実態調査結果、コロナ時代の糖尿病管理と多くの方にご協力いただくことができました。創立から現在までの年譜の作成は根気のある作業でしたが、これまでの活動内容に思いを馳せ、今後の活動の発展につながることを願いながら行いました。また発足当時の先生方の思いや、患者会の発足の由来や活動への思いを知ることができたこともよかったです。

コロナ下で中止となっている協会事業が引き続き再開されることを願っています。



## 千葉県糖尿病協会60周年記念誌発行までの道のり

千葉県糖尿病協会 広報・編集委員長 木村 祐一

新型コロナウイルス感染症という新たな脅威が出現し、千葉県糖尿病協会および傘下の各分会の活動がここ数年活動を休止しなければならぬ状況が続いています。このような状況において、本協会の機関紙ぼうそうは会員同士の様子を相互に理解する唯一の活動となっています。執筆や投稿を募るのも苦労しますが、「どこかに行った、家の中での運動、料理」など写真に一声説明するだけでいいです」と文章量などは問わない募集としています。60周年記念誌は大きなタイトルですが、普段通りの延長という意味とし「ぼうそう特別号」として位置付け、肩肘を張らない冊子としています。ここ10年のぼうそうの写真に掲載し、見ても楽しい内容としています。



## 60周年記念誌発行に際して

岡山県糖尿病協会会長 四方 賢一

岡山県糖尿病協会は、昨年設立60周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されている中でしたが、役員や会員の皆様と相談して、60周年記念誌を作成することにしました。60年の歴史は長く、設立当時を知る人が少ないので、編集作業は大変でしたが、過去の記録や先輩の皆様の記憶を頼りに沿革や分会の紹介記事を作成しました。また、皆様のご協力のお陰で、懐かしい出来事を写真付きで掲載することが出来ました。発刊に際しては、清野裕理事長からご寄稿を頂きまして誠に有難うございました。60年にわたって多くの皆様によって支えられてきた岡山県糖尿病協会を、今後もさらに発展させていきたいと思っております。



## 公益社団法人 日本糖尿病協会

---

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-2-4 麹町セントラルビル8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725

<https://www.nittokyo.or.jp>

<https://www.facebook.com/nittokyo>